

萩原良昭

寝ながらあごやほっぺの髭をさわっていた。

僕はかなり毛深い方なんだろうなあ。

お母ちゃんがよく死んだお父ちゃん事を、大変、毛もじやで、気持ちが悪いくらいだとよく言った。

僕も胸毛や尻毛も生えてくるのかなあ。足の毛はもう今でもかなり濃いのは明らか。

そう言えば、小学校六年の秋には、僕はもうチン毛が生えて来た。

あの頃は近所の同級生と一緒に近所の銭湯に行くのが恥ずかしくなり、いつも一人で、夜遅く、十一時頃、風呂屋が閉まるぎりぎりに行つた。

ほんの小学校四年迄は、女風呂へも平気で行つていたのに。

自分の体の変化が僕を臆病にしているのか。

今までの様に、平気に自然に、自分に正直に、すなおに、行動できなくなつて行く自分が、なぜか情けない。

好きだよ、嫌いだよが、なぜ正直に、すらすら言えないのだろうか。

いつも同じ事を言っている